

第14回 群杭挙動の実証的研究委員会議事録

日 時：2012年2月22日 15:00～18:00

場 所：東京大学 工学部一号館 4階セミナー室A

出席者：東畑委員長、後藤幹事、寺倉幹事、金田委員、川邊委員、木村委員、佐藤委員、高橋委員、千明委員、角田委員、沼田委員、平出委員、吉富委員、本間委員、瀧田委員、青山（オブザーバー）、レンゾ（オブザーバー）、ルキ（オブザーバー）

欠席者：伊藤委員、斉藤委員、関委員、中澤委員、松木委員、松島委員、吉川委員、山田委員、小林恒一委員、松本委員、小林俊一委員、田地委員、石原委員

配布資料：

14-1 前回議事録

14-2 大型土槽を用いた模型実験による群杭の鉛直支持力特性に関する研究（青山）

14-3 Nonlinear behavior of group pile in large scale model test（レンゾ）

14-4 「液状化対策技術検討調査に関する市民報告会」に思う（川邊）

14-5 地盤工学会関東支部研究委員会グループ資料（寺倉）

議事内容

1. 前回議事録確認 後藤幹事

前回議事録の確認があり，修正無く承認された。

2. 群杭模型実験の結果報告と討議

2.1 青山からの報告 青山（東畑研修士学生）

パワーポイント（資料14-2参照）を使用して東畑研修士学生の青山から報告があった。内容は青山の修論に準拠しており，これまでの群杭模型実験全般にわたる。特にタクタイルセンサを用いた载荷中の地中応力の変化，および色砂による地盤変形の観察結果を詳細に分析し，杭間距離の相違による群杭挙動の相違を論じている。

2.2 レンゾからの報告 レンゾ（東畑研修士学生）

パワーポイント（資料14-3参照）を使用して東畑研修士学生のレンゾ・アヤラから彼の修士論文に準拠した群杭実験の分析結果についての報告があった。レンゾの報告は群杭の载荷特性曲線の降伏点や弾性領域の変形特性および杭の分担率などについて分析をおこない，杭間距離と群杭挙動の関係を論じていた。

2.3 可視化実験の途中報告 青山（東畑研修士学生）

土槽の亚克力窓に接しておこなった可視化条件での群杭载荷実験について青山から簡単な報告がおこなわれ，杭下に設置した色砂層が広い範囲にわたって载荷初期から変位することが簡易な方法で確認できたこと等が紹介された。

3. 委員会グループの報告他 寺倉幹事

- 前回委員会で話題にした東北太平洋沖地震による杭基礎の被害に関する WG について、本日第 1 回目の打ち合わせがおこなわれた。WG は各委員が持っている提供可能な情報を説明していただき、メンバーで議論することで進める。第 2 回目の打ち合わせについては後日メールで連絡する。
- 本委員会の延長について新委員会「群杭挙動の実証的な分析および検討委員会」として再発足することになり、資料 14-5 に基づいて内容の説明がされた。再発足時には委員を公募することになり、現在委員の方も再応募していただくようになるのでご承知おき願いたい。

4. その他

- 次回委員会は 2012 年 5 月 ~~22 日(火)~~23 日(水)15 時より東京大学工学部 1 号館 4 階セミナー室 A で行う。
- 議事予定は①群杭試験の分析結果報告、②話題提供：川邊委員、③WG の編成、その他。